

災害に強い街壊すな

「外環の2」裁判報告集会

「とめよう! 『外環の2』武蔵野訴訟報告集会」が6月30日、武蔵野市の武蔵野公会堂で開かれ、200人が参加しました。

成熟した住宅街を横断する都道「外環の2」計画の違法・無効を求める武蔵野訴訟が提訴から7年。東京地裁はこの日に判決を出すとしていましたが、「もう少し審理を深める必要がある」として判決が延期され

たもどで、訴訟の経緯や「外環の2」問題の現状をみなから問題点を明らかにしていこうと開かれました。

弁護団からの報告の後、夫、上田誠吉さんの遺志を継いで原告を継承した上田圭子さんがあいさつ。「このまちは車優先でなく、今でも災害に強いまちです。そういうまちを子孫に残していかなければならない。このまちを残す」とは豊かな生活を残すことだと

述べ、裁判を闘い抜く決意を語りました。法政大学名誉教授で弁護士の五十嵐敬喜さんが「道路はなぜ止まらないのか」と題して基調報告を行いました。

道路づくりに住民の声を活かせ、と語り合ったパネルディスカッション 6月30日、武蔵野市



無責任ぶりを指摘。司法、行政、国会など各方面から変えるための働きかけの重要性を訴えました。

研究者、弁護団、住民によるパネルディスカッション「道路政策にいかに住民の声を反映させるか」が行われました。

集会は最後に、「地域住民が築きあげてきた豊かな住環境を破壊し、地域のつながりを断ち切る『外環の2』計画に反対する」とした決議を参加者の大きな拍手で採択しました。

集会には武蔵野市議、練馬区議、杉並区議など日本共産党をはじめ超党派の多数の議員が参加しました。

「道路は公共事業のチャンピオン」だと述べた50年も経過していることに見られるように何十年たとうがお構いなしに進め、費用がいくら膨らもつが構わな

いという実態を示し、その